

どてらごより

第9号
平成23年2月
瑞宝山 不動寺
TEL 75-4862

卯年は飛躍の年？

田舎坊主の誕生日は卯(うさぎ)年の2月22日。昨年は平成22年2月22日と並びのいい59才の誕生日でしたが、今年はいよいよ還暦です。還暦は文字どおり暦が還ります。いわば「もう一度、再スタート」ということですかね？



子どものころ、40歳を過ぎた大人を見て「ええ年のおじさんやなあ」と思ったものです。そのころ、自分が40歳になるのは、はるかにはるか遠い将来のことにように思っていました。たしかに年月の経過も今よりずっと遅かったように思います。

ところが日々の経過は「加速」されることに気がつきました。つまり同じ早さで経過しないのです。実際にはそんなことはあり得ないのですが、確かに加速されて日々は過ぎ去っていきます。そのことが分かったのは「ええ年のおじさんやなあ」と思った40歳を過ぎたころからです。つまり厄年ころからということになります。人間の生理活動とか生命活動はそのころが頂点なのかも分かりません。ですから後は下り坂です。自ずと地球上では下りは加速されます。当然日々の経過は早くなるのです。

そう諦(あきら)めかけたところに還暦がやってきます。還暦はこの「加速」にブレーキをかけ、一旦止まって「もう一度、再スタート」ということを考えさせてくれる先人の知恵なのかも分かりません。

兎にも角にも、うさぎ年の還暦。うさぎ年が飛躍の年としてもはやされるのは「株式市場」だけのような気がします。ちなみに「兎に角(とにかく)」という言葉は「兎角亀毛」という中国の古い言葉から来ているようで、「うさぎに角、亀の甲に毛がはえる」という、「あり得ないこと」を言ったものです。突飛な良いことは起こらないのであって、地道に生きる愚直さを怠らないようにせよという、戒めと受け取ることにしましょう。



ところで、東京聖路加病院理事長の日野原重明さんは現在99歳です。今取り組んでいることは自著の絵本から生まれたミュージカルを監督指揮し、子どもたちとともに世界の舞台上で上演すること。もう一つは憲法九条を守る運動です。もちろん「いのち」や「生きること、老いること」についての啓蒙は数え切れないほどありますが、この人にしか言えない言葉「100歳からの人生」には唯々驚かされます。「還暦？ 若い！若い！」

平成23年初不動大祭

お餅つきのお手伝いありがとうございました。また当日にはお参りありがとうございました。

今冬はことのほか寒さ厳しい日が続きました。餅つき当日も朝から雪が降る寒い日となりました。例年どおり1斗4升の餅米を前日に洗米し、レンガ造りの簡易釜で7臼を蒸し上げます。午前8時半に焚きつけ開始。10時前には1回目の3臼が蒸し上がります。いま使っている電気餅つき器は30年以上使用している強者で故障知らずです。約10分くらいでつきあがります。杵つきのように手水をほとんど使わないのでつきあがっても熱いのなんのって……。

しかも今年の一臼目はやわらかくなりすぎて、手で取り上げられず、大変なことに……。とりあえず、重ね用5個、投げ用鏡餅6枚を仕上げてもらいました。その後の餅は全てうまく仕上がりました。紅白で同じものをつくり、そのほかは全て投げ餅用小餅になります。約1時間30分で終了。みんなで片付けも協力していただきました。

お昼には、赤田さんから差し入れていただいた手作りぜんざいをいただきました。

翌日の初不動では純令が導師になり、奉詠法要を勤めました。今年の法話は「布施」についてお話ししました。詳しくはホームページに掲載しています。

